学校番号	3005

令和２年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	改訂版　最新　数学Ⅰ　（数研出版）						
副教材等	改訂版教科書傍用 3ROUND 数学Ⅰ（数研出版） エディノート 改訂版数学Ⅰ（啓林館）（総合募集の専科） 改訂版　書き込み式シリーズ[標準]教科書傍用Ｓｔｕｄｙ―Ｕｐノート数学Ⅰ（工学系大学進学専科）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業用のノートを、各自で用意してください。
問題は、まず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるのではなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自で答え合わせをしてください。答え合わせは、赤ボールペンで、間違えた箇所が分かるようにしてください。解答をしっかりと見て答え合わせをすることは、自分がどこでつまずいたかを知るために大切なことです。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

２　学習の到達目標

数と式、集合と命題、２次関数、図形と計量、及びデータの分析の各分野について、基礎的な知識や技能の習得をめざします。
また、事象を数学的に考察する能力を養い、数学の基礎を理解するとともに、さらに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とします。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数と式、集合と命題、２次関数、図形と計量、及びデータの分析の各分野について、関心を持つとともに、数学の有用性を認識し、それらを事象の考察に活用しようとする態度を身に付ける。	事象を数学的に考察し、多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数と式、集合と命題、２次関数、図形と計量、及びデータの分析の各分野において、数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式、集合と命題、２次関数、図形と計量、及びデータの分析の各分野について、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式、集合と命題、２次関数、図形と計量、及びデータの分析の各分野について、基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・授業への出席状況 ・授業に取り組む姿勢 ・課題の提出状況 ・観察　等	・課題の提出状況 ・小テスト ・定期考査 ・観察　等	・課題の提出状況 ・小テスト ・定期考査 ・観察　等	・課題の提出状況 ・小テスト ・定期考査 ・観察　等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	数と式	第１節　数と式 １．整式 ２．整式の加法・減法・乗法 ３．展開の公式 ４．式の展開の工夫 ５．因数分解 ６．いろいろな因数分解 ７．実数 ８．根号を含む式の計算	○	○	○		a: 数式の計算規則に関心をもち、それらの特徴を理解しようとしている。 b:式の展開と因数分解を関連付けて考察することができる。 c:公式を用いて、式の展開や因数分解ができる。	課題の提出 状況 小テスト 定期考査 観察　等
		第2節　1次不等式 9. 不等式 10. 不等式の性質 11. 1次不等式の解き方 12. 連立不等式 13. 不等式の利用		○	○	○	b:方程式と不等式を関連付けて考察することができる。 c:１次不等式を解くことができる。 d:連立不等式の解法について理解し、解くことができる。	課題の提出 状況 小テスト 定期考査 観察　等
	集合と命題	１．集合と部分集合 ２．共通部分、和集合、補集合 ３．命題と集合 ４．命題と証明	○	○		○	a:集合の考え方に関心をもち、集合の扱いを理解しようとしている。 b:ベン図を用いて、集合間の関係を考察することができる。 d:命題と集合の関係について理解している。間接証明法について理解している	課題の提出 状況 小テスト 定期考査 観察　等
	２次関数	第１節　２次関数とグラフ １．関数 ２．関数とグラフ ３．２次関数のグラフ ４．２次関数のｙ軸方向への平行移動 ５．２次関数のｘ軸方向への平行移動 ６．２次関数の標準形 ７．２次関数の一般形 ８．２次関数の最大・最小 ９．２時間数の決定	○		○	○	a: ２次関数とそのグラフに関心をもち、それらの特徴を理解しようとしている。 c:一般形の２次関数を標準形に変形してグラフを描くことができる。 d:２次関数の最大･最小について理解している。	課題の提出 状況 小テスト 定期考査 観察　等

		第2節　2次方程式と2次不等式 10. 2次方程式 11. 2次関数のグラフとx軸の共有点 12. 2次不等式 13. 2次不等式の利用		○	○	○	b: 2次関数のグラフと x 軸の共有点の関係を、2次方程式の知識と関連付けて考察することができる。 c: 2次関数のグラフと2次不等式の関係を理解し、2次不等式を解くことができる。 d: 2次不等式の利用ついて理解している。	課題の提出 状況 小テスト 定期考査 観察　等
後期	図形と計量	第１節　三角比 １．鋭角の三角比 ２．三角比の利用 ３．三角比の相互関係 ４．三角比の拡張 ５．三角比が与えられたときの角	○	○	○		a: 三角比に関心をもち、それらの特徴を理解しようとしている。 b: 鋭角の三角比を直角三角形と関連付けて考察することができる。 c: 三角比の相互関係の意味を理解し、活用できる。	課題の提出 状況 小テスト 定期考査 観察　等
		第２節　正弦定理・ １．正弦定理 ２．余弦定理 ３．三角形の面積 ４．図形の計量		○	○	○	b: 正弦定理を三角形の知識と関連付けて考察することができる。 c: 余弦定理の意味を理解し、活用できる。 d: 図形の計量について、理解している。	課題の提出 状況 小テスト 定期考査 観察　等
	データの分析	１．データの整理 ２．データの代表値 ３．データの散らばり ４．四分位範囲 ５．データの相関 ６．相関係数 ７．表計算ソフトによるデータの分析	○	○		○	a: データの整理の関係に関心をもち、それらの特徴を理解しようとしている。 b: データの代表値・散らばり・四分位範囲を、今までの知識と関連付けて考察することができる。 d: 表計算ソフトを用いたデータの分析ついて理解している。	課題の提出 状況 小テスト 定期考査 観察　等

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:数学的な見方や考え方
c:数学的な技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。